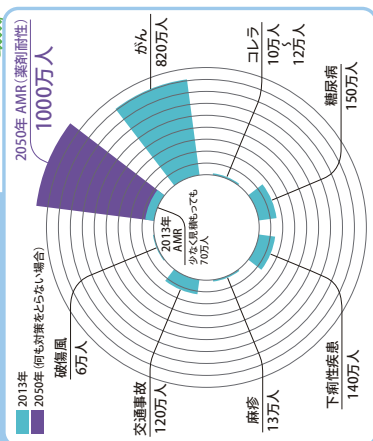




## 「地域における感染症対策に係るネットワークの標準モデルを検証・推進するための研究」

肺炎や尿路感染などの細菌感染症の治療薬である抗生物質(抗薬)が効かなくなる薬耐性(英語で、AMRといいます)が、世界的な問題になっています。2013年時点で、薬耐性が原因となった死亡者数は70万人程度ですが、このまま何も対策を取らない場合、2050年には、がんを超えて、1000万人が死亡すると推計されています。

**薬耐性(AMR)に起因する死者数の推定**  
 がんこそ薬耐性による死亡数が多いと推定



出典元:第1回薬耐性に関する検討調整会議(平成27年12月24日)資料2-1  
 厚生労働省集計資料

世界保健機関(WHO)の加盟国は、薬耐性に関する国家的な計画を策定することになりました。また、2016年5月のG7伊勢志摩サミットでもテーマの1つとして取り上げられました。日本において、検討がなされ、2016年4月に、今後5年間で実施すべき事項をまとめた「薬耐性(AMR)対策アクションプラン」が策定されました。

### 研究のスケジュール



抗生物質が効かなくなると、医療は非常に危険なものになります。「いつまでもより良い医療が受けられるよう未来に抗生物質を残したい」その思いを胸に活動していきます。

三重県を一つの地域モデルとして、感染症対策を推進するネットワークを構築し、三重モデルを全国に広げていくのが目標です。

薬剤耐性は、医療関係者だけでなく、県民のみならずにも関連する課題です。11月はAMR月間になります。市民公開講座などを通じて、県民への啓発も行なっていきます。

**11月はAMR対策推進月間**

必要となる人に抗生薬を  
 上手に付きあおう  
 「ハイキン」と「マスク」  
 一役はついでに  
 11月23日 AMR(薬耐性)対策推進月間

